

ジェンダー研究センター彙報<平成23年度>

(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

職名は発令時による

平成23 (2011) 年度研究プロジェクト概要

	年月日	テーマ	報告者、評者等
IGS セミナー	ジェンダー研究センター提供科目「国際ジェンダー論」連続講座		
	平成23年4月20日	第1回「国際組織のジェンダー主流化政策とジェンダー平等のための活動—ユネスコの経験を中心に」	【講師】 菅野琴 (元ユネスコ本部職員/IGS客員研究員)
	平成23年4月27日	第2回「教育、貧困とジェンダー：エンパワーメントの生涯学習」	【講師】 菅野琴 (元ユネスコ本部職員/IGS客員研究員)
	平成23年5月11日	第3回「教育におけるジェンダー平等、質的経験の量的測定の課題と挑戦」	【講師】 菅野琴 (元ユネスコ本部職員/IGS客員研究員)
	平成23年5月18日	公開シンポジウム「危機における国連機関の役割と戦略的ジェンダーの視点」	【報告】 池上清子 (国連人口基金 東京事務所長)、斎藤万里子 (元国連開発計画職員、ジェンダーと開発コンサルタント)、菅野琴 (元ユネスコ本部職員/IGS客員研究員) 【コメンテーター】 菅野琴 【司会】 館かおる (IGS教授)
	平成23年11月21日	「グローバル金融危機後のアジアとジェンダー」 【主催】 IGS 【共催】 法政大学サステナビリティ研究教育機構	【講師】 スナンダ・セン (Sunanda Sen) (Institute for Studies in Industrial Development客員教授) 【司会】 足立眞理子 (IGSセンター長)
公開 シン ポジ ウム	平成23年7月8日	国際シンポジウム「アジアにおけるグローバル化とジェンダーの現在—マクロ経済と社会構築」 (UNDP集中セミナー『ジェンダーとマクロ経済に関する能力構築』パブリック・フォーラム、およびグローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成プロジェクト) 【主催】 お茶の水女子大学、国連開発計画 (UNDP) 【後援】 外務省、内閣府男女共同参画局、国際協力機構、国際フェミニスト経済学会 (IAFFE)、新時代の女性による代替的開発グループ (DAWN)、ジェンダーとマクロ経済に関する国際ワーキンググループ (GEM-IWG) 【事務局】 IGS	【基調講演】 ダイアン・エルソン (Dian Elson) (エセックス大学教授) 【報告】 大沢真理 (東京大学社会科学研究所教授)、マリア・フローロ (Maria Floro) (アメリカン大学准教授)、マリナ・デュラーノ (Marina Durano) (マレーシア・サインズ大学ポストドクトラルフェロー)、池田恵子 (静岡大学教育学部教授)、竹信三恵子 (ジャーナリスト・和光大学教授・東日本大震災女性支援ネットワーク共同代表) 【ディスカッサント】 足立眞理子 (IGSセンター長) 【挨拶】 羽入佐和子 (お茶の水女子大学学長)、八木浩治 (UNDP東京事務所代表代行)、岡島敦子 (内閣府男女共同参画局局長)、西野恭子 (JICA経済基盤開発部ジェンダー平等・貧困削減推進室・室長)、マリア・フローロ (Maria Floro) (GEM-IWG、アメリカン大学准教授)、マリナ・デュラーノ (Marina Durano) (DAWN、マレーシア・サインズ大学ポストドクトラル・フェロー) 【司会】 申琪榮 (IGS准教授)、館かおる (IGS教授)
	平成23年11月22日	国際シンポジウム「ケア・エコノミーの現在：労働概念の拡張をめぐる」 【主催】 IGS 【助成】 野村財団	【講師】 スーザン・ヒメルヴァイト (Susan Himmelweit) (Open University教授) 【コメンテーター】 伊藤誠 (東京大学名誉教授)、堀芳枝 (恵泉女学園大学准教授) 【司会】 足立眞理子 (IGSセンター長)

<p>UNDP 集中セミナー (国連開発計画)</p>	<p>平成23年7月4日 ～16日</p>	<p>「ジェンダーとマクロ経済に関する能力構築」 【主催】 お茶の水女子大学、UNDP (国連開発計画) 【事務局】 IGS</p>	<p>【講師】 ダイアン・エルソン (Dian Elson) (エセックス大学教授)、マリア・フローロ (Maria Floro) (アメリカン大学准教授)、市井礼奈 (Royal Melbourne Institute of Technology, Australia講師)、マルゲリータ・ゲレーロ (Margerita Guerrero) (UN ESCAP)、マリナ・デュラーノ (Marina Durano) (マレーシア・サインズ大学ポストドクトラル・フェロー)、村松安子 (東京女子大学名誉教授)、ビプローヴ・チョウドリー (Biplove Choudhary) (UNDP Asia Pacific Regional Centre) プログラム・スペシャリスト、日下部京子 (AIT教准教授)、セリム・ライハン (Selim raihan) (University of Dhaka講師)</p>
<p>ワークショップ</p>	<p>平成23年11月17日</p>	<p>特別ワークショップ「Feminist Economics and the Gender-Impact Analysis of Economic Policy」 【主催】 IGS 【助成】 野村財団</p>	<p>【講師】 スーザン・ヒメルヴァイト (Susan Himmelweit) (Open University) 【司会】 足立真理子 (IGSセンター長)</p>
	<p>平成24年1月30日</p>	<p>国際ワークショップ「東アジアにおける『女性と科学/技術』」 【主催】 IGS研究プロジェクト『科学技術とジェンダー』に関わる研究の諸局面の検討 【共催】 2010年度科学技術社会論・柿内賢信記念賞 (JSSTS Yoshinobu Kakiuchi Memorial Award)</p>	<p>【基調講演】 小川眞里子 (三重大学人文学部教授、IGS客員教授) 【報告】 Eun-Kyoung LEE (Chonbuk National Univ. Korea)、Yen-Wen PENG (National Sun Yat-sen Univ.Taiwan)、Li-Ling TSAI (National Kaohsiung Normal Univ.Taiwan)、財部香枝 (中部大学准教授)、河野銀子 (山形大学准教授)、三浦有紀子 (東京大学先端科学技術研究センター産学連携コーディネータ) 【挨拶】 館かおる (IGS教授)</p>
	<p>平成24年2月29日</p>	<p>アジア工科大学院大学 (AIT)・お茶の水女子大学学生交流特別公開ワークショップ「災害とジェンダー」 【主催】 開発・ジェンダー論コース、IGS</p>	<p>【報告】 フィリップ・ドニー (Philippe Doneys) (AIT環境資源開発研究科ジェンダーと開発学専攻講師)、日下部京子 (AIT環境資源開発研究科ジェンダーと開発学専攻准教授)、高田千尋 (本学大学院博士前期課程)、サムディ・タン (Samedy Thann) (AIT修士課程)、佐々木忍 (AIT博士課程)、スタンナード・ポリリー (Polly Stannard) (本学大学院博士前期課程) 【特別講演】 八幡悦子 (みやぎジョネット) 【コメンテーター】 池田恵子 (静岡大学教育学部教授、東日本大震災女性支援ネットワーク) 【挨拶】 館かおる (IGS教授)、日下部京子 (AIT准教授) 【司会】 申琪榮 (IGS准教授)、鳥山純子 (本学大学院博士後期課程)</p>
<p>講演会</p>	<p>平成23年6月4日</p>	<p>生活社会科学研究会 講演会「私のジェンダー法学研究」 【共催】 生活社会科学研究会、IGS、花経会</p>	<p>【講師】 戒能民江 (IGS客員教授、本学名誉教授) 【コメンテーター】 小谷眞男 (本学大学院人間文化創成科学研究科准教授)</p>
<p>研究会</p>	<p>平成23年4月30日</p>	<p>映画『女と孤児と虎』上映会&トークイベント 【主催】 IGS 【後援】 アジア女性資料センター、wam (女たちの戦争と平和資料館)、VAWW-NET (「戦争と女性への暴力」日本ネットワーク)、日本映画大学</p>	<p>【報告】 徐阿貴 (IGS研究機関研究員)、池内靖子 (立命館大学産業社会学部教授)、ジェーン・ジン・カイスン (Jane Jin Kaisen) (映画監督)、ガストン・ソンディン・クン (Gaston Sondin Kun) (映画共同製作者) 【通訳】 本山央子 (アジア女性資料センター) 【コーディネーター】 イトー・ターリ (パフォーマン・アーティスト)</p>
	<p>平成24年3月6日</p>	<p>2011年度IGS研究報告会 【主催】 IGS</p>	<p>【報告】 高橋さきの (IGS研究協力員、東京農工大学非常勤講師)、根村直美 (IGS研究協力員、日本大学教授)、崔京実 (IGS研究協力員、中国共産党中央編訳局) 【司会】 徐阿貴 (IGS研究機関研究員)</p>

学会	平成23年 4月16日	日本フェミニスト経済学会2011年度大会 「ジェンダー予算分析という挑戦」 【主催】 日本フェミニスト経済学会 【協賛】 IGS	【座長・司会】 居城瞬子（常葉学園大学） 【報告者】 神野直彦（東京大学名誉教授）、人見章子（webアソシエ） 【討論者】 村松安子（東京女子大学名誉教授）、竹信三恵子（和光大学教授） 【挨拶】 足立真理子（IGSセンター長）
----	-------------	---	--

1. 人事関係

1) 運営委員会名簿 (括弧内は在任期間)

ジェンダー研究センター長・人間文化創成科学研究科教授	足立眞理子	(平成19年4月1日～)
ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授	舘 かおる	(平成8年5月11日～)
ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科准教授	申 琪榮	(平成20年4月1日～)
ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授	石井クンツ昌子	(平成20年4月1日～)
ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授	石塚 道子	(平成20年4月1日～)
ジェンダー研究センター員・人間文化創成科学研究科教授	棚橋 訓	(平成20年4月1日～)
人間文化創成科学研究科教授	米田 俊彦	(平成16年4月1日～)
人間文化創成科学研究科教授	真島 秀行	(平成16年4月1日～)
人間文化創成科学研究科教授	宮尾 正樹	(平成19年4月1日～)
人間文化創成科学研究科教授	小玉 亮子	(平成23年4月1日～)

2) スタッフ名簿 (括弧内は在任期間)

センター長 (併)	足立眞理子	(平成19年4月1日～)
センター教員	舘 かおる	(平成12年4月1日～)
	申 琪榮	(平成20年4月1日～)
客員教授 (国内)	柘植あづみ (明治学院大学社会学部教授)	(平成20年4月1日～)
	小川眞里子 (三重大学人文学部教授)	(同上)
	伊藤 るり (一橋大学大学院教授)	(同上)
	戒能 民江 (お茶の水女子大学名誉教授)	(平成23年4月1日～ 平成24年3月31日)

客員研究員

菅野 琴
(元駐ネパールユネスコ代表・元ユネスコ本部職員・国立女性教育会館客員研究員) (平成20年4月1日～)
神尾真知子 (日本大学法学部教授)
(平成23年4月1日～)

研究協力員

大海 篤子
(東京都市大学非常勤講師)
(平成20年4月1日～)
小林富久子
(早稲田大学教育学部教授・ジェンダー研究所所長)
(平成20年4月1日～
平成24年3月31日)

山崎美和恵
(埼玉大学名誉教授)
(平成20年4月1日～)

高橋さきの
(お茶の水女子大学・東京農工大学非常勤講師) (同上)

根村 直美
(日本大学経済学部教授) (同上)

崔 京実
(中国中央編訳局文献部日本語処副訳審) (平成23年10月1日～
平成24年9月30日)

研究機関研究員

徐 阿貴
(平成22年4月1日～)

研究支援推進員

板井 広明
(平成22年12月1日～)

事務局員

花岡ナホミ
(平成18年4月1日～)

アソシエイトフェロー

石川 涼子
(平成22年5月1日～
平成24年3月31日)

アカデミック・アシスタント

吉原 公美
(平成22年5月1日～)

アカデミック・アシスタント

平野 恵子
(平成23年3月1日～
平成23年7月31日)

アカデミック・アシスタント

城石 梨奈
(平成22年7月1日～)

研究員(科学研究費)

滝 美香
(平成23年5月1日～)

研究員(科学研究費)

長田 華子
(平成23年5月16日～
平成24年3月31日)

2. 会議関係

<運営委員会の開催>

平成23年 5月12日/6月2日/7月27日/

平成24年 1月26日/2月22日

3. 研究調査活動

1) センター研究プロジェクト

「教育的貧困と女性：エンパワーメントの生涯教育」

【研究担当】

菅野琴 (IGS客員研究員・元駐ネパールユネスコ代表・元ユネスコ本部職員・国立女性教育会館客員研究員)

館かおる (IGS教授)

【研究内容】

教育におけるジェンダー平等の国際的コミットメント、執行と評価の課題を検証し、最近の国際社会のジェンダー主流化の課題を国連改革の文脈の中で論じることを目的とした。本研究では、国際社会のジェンダー平等への努力とその現実を包括的に把握することにより、将来、国際社会開発協力の専門家や実践活動をめざす人材、特に女性の人材育成に寄与する視点からの考察を深めた。本研究プロジェクトは、研究成果の一部を4月20日、27日、5月11日に開講されたお茶の水女子大学ジェンダー研究センター提供科目「国際社会ジェンダー論」の講義で示し、5月18日に開催される公開シンポジウムでは、UNDP (国連開発計画) など国際社会で開発協力の現場経験を持つ専門家の斎藤万里子氏と国連人口基金東京事務所長の池上清子氏をゲストに迎え、ユネスコ本部職員やネパール・カトマンズ事務所長の経験を有し、現在本学の客員研究員である菅野琴氏をコーディネーターとして、紛争と平和構築、世界的経済危機の開発協力への影響、人材育成の問題など、最近の国際社会での重要課題をジェンダーの視点から議論した。

「グローバル金融危機以降におけるアジアの新興/成熟経済社会とジェンダー」

<科学研究費基盤研究A>

【研究担当】

足立真理子 (IGSセンター長)

館かおる (IGS教授)

申琪榮 (IGS准教授)

斎藤悦子 (お茶の水女子大学准教授)

姉齒暁 (駒澤大学教授)

山田和代 (滋賀大学准教授)

伊田久美子 (大阪府立大学教授)

グレンダ・ロバーツ (早稲田大学教授)

伊藤るり (一橋大学大学院教授、IGS客員教授)

金井郁 (埼玉大学准教授)

堀芳枝 (恵泉女学園大学准教授)

長田華子 (本学大学院博士後期課程)

滝美香 (科研費研究員)

【研究内容】

本研究プロジェクトは、グローバル金融危機以降のアジア経済動向とジェンダー配置を、金融・生産・再生産領域のグローバル化とその接合関係を現状分析することによって明らかにすることを目的としている。本年度は、初年度であり、以下の国内外の実態調査および、国際会議・研究会を行った。

I. アジアの新興/成熟経済社会の実態調査：

1. 生産領域問題群：(1) 縫製・衣料産業…日本 (岩手県)、バングラデシュでの企業インタビュー、製造工場調査 (特に、中国からの二次移転状況と技術訓練を中心として、既に収集した情報を精査した。また、日本 (岩手県) において、海外移転せず、国内に製造拠点を維持している縫製工場の経営方法、技術水準、雇用実態に関して、市役所、行政サービス、企業インタビューを行った。(2) 高齢化対応産業…日本 (岐阜県)、中国 (上海) にて、車いす製造企業の実態調査 (工場内生産配置、従業員インタビュー) を行った。

2. 再生産領域問題群：日本及び韓国の生命保険会社の比較調査として、日本本社、韓国一ベトナム子会社の実態調査を行い、生命保険業務のアジア地域での浸透過程に着目し、研究を進めた。

3. 金融・情報問題群：米国 (サンフランシスコ、ロサンゼルス) の世帯構造変化と金融資産・負債状況の予備調査として、金融機関、信用組合、不動産開発企業、個人に対するインタビューを実施、資料を収集した。

II. 連携研究セミナー・国際シンポジウムの開催

国際フェミニスト経済学会 (IAFFE) と国連開発計画 (UNDP)、お茶の水女子大学ジェンダー研究センター (IGS) 共催による「アジアにおけるグローバル化とジェンダーの現在——マクロ経済と社会構築」に関する国際シンポジウムを7月に開催し、ダイアン・エルソン教授によるフェミニスト経済学からみたグローバル化に関する最新の知見を得た。また、スーザン・ヒメルヴァイト教授 (英国オープンユニバーシティ) を招聘し、「ケア・エコノミーの現在」シンポジウムを開催し、ケア経済の理論的精査を行った。

「DV対策など、女性支援政策の効果的展開に関する調査研究」

<厚生労働科学研究費補助金>

【研究担当】

戒能民江（本学名誉教授・IGS客員教授）

湯澤直美（立教大学教授）

堀千鶴子（城西国際大学准教授）

吉田容子（立命館大学教授）

齋藤百合子（明治学院大学准教授）

栗本京子（厚生科学研究費研究員）

小口恵巳子（厚生科学研究費研究員）

【研究内容】

本研究は、DVなど女性に対する暴力を中心に、国及び地方自治体の女性支援策の現状分析を行い、女性支援政策の効果的展開に資する政策提言を行うことを目的とする。23年度は研究事業最終年であり、研究チーム全員が参加する「連携研究」を中心に調査研究を行い、研究の集約と統合に努めた。22年度実施の民間シェルター調査に引き続き、全国47か所の一時保護所運営体制ならびに利用者調査を行い、地域間の格差が拡大していること、人員配置、利用条件、外国人女性への支援、支援プログラム、子どもへの支援など、支援体制が十分ではなく、改善の余地が大きいことが明らかになった。一時保護所の利用者調査結果からは、民間シェルターと同様に、暴力加害者の多様性と被害者の抱える困難の複合性が示され、複合的困難と社会経済階層に対応した支援の必要性が確認された。外国籍女性については、特有の脆弱性に起因する困難の解決のための方策を韓国の多文化共生政策に学びながら、専門家集団と意見交換を行って検討し、外国人女性への理解促進研修モデルを構築した。

「韓国のジェンダー主流化の取り組みにおけるナショナル・マシナリーの研究」<科学研究費補助金基盤研究C>

【研究担当】

申琪榮（IGS准教授）

【研究内容】

初年度である23年度は、ジェンダー主流化に関する文献収集を通じて理論研究、さらにソウルへのフィールドワークを実施した。ソウルでは梨花女子大学のアジア女性学センターの客員研究員として3週間研究を行い、韓国の研究者らと意見交換などを行った。韓国のジェンダー主流化を進めるべき女性家族部は、保守的な性格の強い政権の下、従来より権限が縮小され、女性の権益に関する事業は萎縮しているように

思われる。それは、権限の小さい政府機関は他省庁と比較して、より政権の性格の影響を受けやすいことを示している。

「The Impact of Gender Quota in Korea」

<Academy of Korean Studies Individual Research Grant>

【研究担当】

申琪榮（IGS准教授）

【研究内容】

韓国では2000年政党法の改正により初めてジェンダー・クォータ制度が法的な根拠をもつようになった以来、今年2012年まで4回の国政総選挙が行われた。とりわけ、比例代表名簿の50%を女性候補者に割り当てるよう義務づけた2002年の複数の政治関連法の改正は、韓国における女性の政治参加を画的に増加させたものとして評価できる。2004年の第17代総選挙では、16代国会の5.9%の2倍を超える13.0%に上り、史上初めて女性国会議員が10%を超えるようになった。その後の2回の選挙でも（2008年、2012年）微増でありながら増加傾向は保った。しかし、いずれも20%に近づくことはなく、現行ジェンダー・クォータ制度が女性の政治参加を持続的に引き上げるには限界をみせている。本研究は、2012年4月に行われる第19代総選挙の結果を含め、2000年から12年間実施されてきた韓国のジェンダー・クォータ制度がもつ女性の政治的的代表性に及ぼす両義的な効果——成果と限界——を分析した。

「在日朝鮮人女性による「下位の対抗的公共圏」形成——夜間中学をめぐる運動の検討」

<科学研究費補助金（研究成果公開促進費）>

【研究担当】

徐阿貴（IGS研究機関研究員）

【研究内容】

本研究の目的は、1990年代に東大阪市の公立夜間中学で学ぶ1世および2世在日朝鮮人女性を中心とした、教育権を争点とする社会運動の生成、展開、帰結のプロセス、運動を通じて形成された女性主体の諸相を、地域社会、民族的共同体、私的領域との関係において明らかにすることである。この研究は本学大学院人間文化研究科に提出した博士論文を土台とし、大阪および韓国でのフォローアップ調査結果を踏まえ考察を深めたものであり、成果は2012年2月『在日朝鮮人女性による「下位の対抗的な公共圏」の形成——大阪の夜間中学を核とした運動』（御茶の水書房）として刊行された。

「リベラルな多文化主義によるリベラルではない文化への介入の研究」＜科学研究費補助金若手研究B＞

【研究担当】

石川涼子（IGSアソシエイトフェロー）

【研究内容】

本年は、現代政治理論における関連文献のサーベイを進めた。また2012年3月発行『ジェンダー研究』第15号に論文「リベラルではない文化への介入——カナダにおけるムスリム女性をめぐる事例の政治理論からの考察」を投稿した。論文では、カナダの事例を手掛かりにして、いかにしてリベラリズムの要請と、多文化主義の要請とを両立させるかを考察した。

「科学技術とジェンダー」に関わる研究の諸局面の検討」

【研究担当】

小川真里子（IGS客員教授・三重大学教授）

館かおる（IGS教授）

根村直美（IGS研究協力員・日本大学教授）

高橋さきの（IGS研究協力員・本学非常勤講師）

【研究内容】

今年度は、日本における「科学技術とジェンダー」に関わる研究分野について、次のような研究成果を得た。

2012年1月に国際ワークショップを開催し、報告書『東アジアにおける「女性と科学／技術」』2012年3月を刊行した。その他の主な研究成果として、「EUにおける女性研究者政策の10年」『人文論叢』（三重大学人文学部文化学科研究紀要）2012年3月、「Women's Translations of Scientific Texts in the 18th Century: A Case Study of Marie-Anne Lavoisier,」*Historia Scientiarum*, vol.21-2, 2011、「性差をめぐる言説の大転換」桑原雅子・川野祐二編『（新通史）日本の科学技術——世紀末転換期の社会史1995年～2011年 第3巻』2011年10月 原書房、「19世紀後半アメリカにおける「月経」をめぐる論争の展開——M. P. ジャコビーの『月経中の女性の安静にかんする問題』を中心に』『人間文化創成科学論叢』14号、「テクノバイオポリティクスという視角」および「生成としてのサイボーグに関する一考察」（2011年度IGS研究報告会）などがある。

「医療技術／機器開発とジェンダー」

【研究担当】

柘植あづみ（IGS客員教授・明治学院大学教授）

菅野摂子（立教大学ほか非常勤講師）

小門穂（大阪教育大学非常勤講師）

【研究内容】

「遺伝子、卵子、胎児」に焦点をあてて、医療技術（卵子提供等第三者がかかわる生殖補助技術）、医療検査（遺伝子検査、出生前検査）とジェンダーについて調査研究を続けてきた。成果はTsuge, Azumi and Hong Hyunsoo 2011 "Reconsidering ethical issues about 'voluntary egg donors' in Hwang's case in global context", *New Genetics and Society*, 30:3, pp. 241-252. 柘植あづみ 2011「卵子提供について多角的な視点から見る——アメリカでの調査から」『助産雑誌』、60:8, pp. 710-713. として公表した。

4. 研究交流・社会連携部門

平成23年4月から平成24年3月の間の活動は次の通りである。

(1) 研究交流会

平成24年3月6日にIGS研究交流会を開催。高橋さきの（IGS研究協力員、本学／東京農工大学 非常勤講師）が「テクノバイオポリティクスという視角」、根村直美（IGS研究協力員、日本大学教授）が「生成としてのサイボーグに関する一考察」と題して報告した。また崔京実（IGS研究協力員、中国共産党中央編訳局）が、中国共産党中央編訳局での経験を交えつつ、中国の人口政策（一人っ子政策）について解説を行なった。

(2) IGSセミナー、シンポジウム、講演会、ワークショップ

① 4月30日〈映画上映会〉

「女と孤児と虎」上映会&トークイベント

『女と孤児と虎』（ジェーン・ジン・カイスン監督、2010年）を上映。徐阿貴（IGS研究機関研究員）が「コリアン・ディアスポラとジェンダー」と題する報告を行い、池内靖子（立命館大学産業社会学部教授）が映画についてコメントを行った。ジェーン・ジン・カイスン（監督）およびガストン・ソンドン・クン（共同製作者）が会場とのトークを行った。

② 4月20日、4月27日、5月11日

ジェンダー社会科学専攻「国際ジェンダー論」連続講座（全3回）、ジェンダー研究センター提供科目、女性リーダー育成プログラム（実践編）履修科目、講師：菅野琴（IGS客員研究員、元ユネスコ本部職員）。

③ 5月18日〈公開シンポジウム〉

「危機における国連機関の役割と戦略的ジェンダーの視点」

ジェンダー研究センター提供科目、ジェンダー社会科学専攻「国際ジェンダー論」、女性リーダー育成プログラム（実践編）履修科目。

池上清子（国連人口基金 東京事務所長）が「国連人口基金におけるジェンダー関連課題の諸局面」、斎藤万里子（元国連開発計画職員、ジェンダーと開発コンサルタント）が「国連開発計画のジェンダー平等戦略と8ポイント・アジェンダ」、菅野琴（IGS客員研究員、元ユネスコ本部職員）が「人道支援か能力開発か？——国連機関の葛藤」と題した報告を行った。

④ 6月4日〈講演会〉

生活社会科学研究会 戒能民江（IGS客員教授、本学名誉教授）が「私のジェンダー法学研究」と題して講演を行った。

⑤ 7月9日〈公開シンポジウム〉

「アジアにおけるグローバル化とジェンダーの現在——マクロ経済と社会構築」UNDP集中セミナー『ジェンダーとマクロ経済に関する能力構築』パブリック・フォーラム、およびグローバル社会における平和構築のための大学間ネットワークの創成プロジェクト。

ダイアン・エルソン（Dian Elson）（エセックス大学社会学部教授）が「グローバリゼーション下の金融・生産・再生産」と題する基調講演を行った。またマリア・フローロ（Maria Floro）（アメリカン大学准教授）が「環境の危機と社会的再生産：連関を理解する」、大沢真理（東京大学社会科学研究所教授）が「生活保障システムの比較ジェンダー分析が示すもの」、マリナ・デュラーノ（Marina Durano）（マレーシア・サインズ大学ポストドクトラルフェロー）が「対アジアODAのジェンダーを探る」、池田恵子（静岡大学教育学部教授）が「災害リスク削減のジェンダー主流化：バングラデシュの事例から」、竹信三恵子（ジャーナリスト・和光大学教授・東日本大震災女性支援ネットワーク共同代表）が「日本の災害から見るジェンダー課題」と題する報告を行った。

⑥ 11月17日〈特別ワークショップ〉

スーザン・ヒメルヴァイト（Susan Himmelweit）（Open University, UK教授）が、「Feminist Economics and the Gender-Impact Analysis of Economic Policy」と題する講演を行った。

⑦ 11月21日〈IGSセミナー〉

スナンダ・セン（Sunanda Sen）（Institute for Studies in Industrial Development客員教授）が、「グローバル金融

危機後のアジアとジェンダー」と題する講演を行った。

⑧ 11月22日〈国際シンポジウム〉

スーザン・ヒメルヴァイト（Susan Himmelweit）（Open University教授）が、「ケア・エコノミーの現在：労働概念の拡張をめぐって」と題する講演を行った。

⑨ 1月30日〈国際ワークショップ〉

「東アジアにおける『女性と科学／技術』

2011年度IGS研究プロジェクト「『科学技術とジェンダー』に関わる研究の諸局面の検討」および、2010年度科学技術社会論・柿内賢信記念賞「アジアにおける女性研究者に関する科学社会論的研究」（受賞者：小川眞里子）の一環として開催された（使用言語：英語）。小川眞里子（IGS客員教授／三重大学教授）がHistory and Situation of East Asian Workshops for Women Researchers'と題し基調講演を行った。第1セッション（韓国・台湾の報告）では、Eun-Kyoung LEE（全北大学・韓国）がPast, Present, and Future of Women in S & T in Korea'、Yen-Wen PENG（National Sun Yat-sen Univ. Taiwan）がShe Figures - Statistics and Indicators on Gender Equality in Science. EU vs. Taiwan'、Li-Ling TSAI（国立高雄教育大学ジェンダー教育研究所准教授）、がSurvey outcome of women scientists' family and career conditions in Taiwan'と題し報告を行った。第2セッション（日本の報告）では、財部香枝（中部大学准教授）がLarge-Scale Survey of Japanese Scientists and Engineers'、河野銀子（山形大学准教授）がScience for Junior-high School Girls in Japan'、三浦有紀子（東京大学先端科学技術研究センター産学連携コーディネーター）がPositive action in Japan'と題する報告を行った。

(3) 関連研究会

① 「映像表現とジェンダー」研究会

〈コーディネーター〉館かおる（IGS教授）、小林富久子（IGS研究協力員・早稲田大学教授）

〈事務局〉磯山久美子（IGS研究協力員、立教大学ほか非常勤講師）、臺丸谷美幸（本学大学院博士後期課程）ほか。

② 「フェミニスト経済学研究会」

〈コーディネーター〉足立眞理子（IGSセンター長）、伊田久美子（大阪府立大学教授）

③ 「国際移動とジェンダー（IMAGE）」研究会

〈コーディネーター〉伊藤るり（IGS客員教授、一橋大学教授）

〈メンバー〉足立眞理子 (IGSセンター長)、小ヶ谷千穂 (横浜国立大学准教授)、定松文 (恵泉女学園大学教授)、稲葉奈々子 (茨城大学准教授)、大橋史恵 (日本学術振興会特別研究員)、呉泰成 (一橋大学大学院博士後期課程)、越智方美 (独立行政法人・国立女性教育会館)、平野恵子 (IGSアカデミック・アシスタント)

④「日米女性政治学研究者交流シンポジウム (JAWS)」

〈コーディネーター〉申琪榮 (IGS准教授)

〈事務局〉大海篤子 (IGS研究協力員・東京都市大学非常勤講師)

4) 国際連携プロジェクト (UNDPおよびAIT)

①7月4~15日 (UNDP (国連開発計画) との連携事業)

IGSは事務局として、国立女性教育会館にて集中セミナー「ジェンダーとマクロ経済に関する能力構築」を実施。本セミナーは、アジア太平洋地域でジェンダーとマクロ経済に関するプロジェクトに従事する各国政府、国際機関、NGO、研究機関や学術関係者を対象とする研修プログラムであり、19か国より34名がフェローとして参加した。ジェンダーと開発を専門とする世界的に著名な研究者、実務家が講義を行った。

【講師】ダイアン・エルソン (Dian Elson) (エセックス大学教授)、マリア・フローロ (Maria Floro) (アメリカン大学准教授)、市井礼奈 (Royal Melbourne Institute of Technology 講師)、マルゲリータ・ゲレーロ (Margerita Guerrero) (UN ESCAP)、マリナ・デュラーノ (Marina Durano) (マレーシア・サインズ大学ポストドクトラル・フェロー)、村松安子 (東京女子大学名誉教授)、ビプローヴ・チョウドリー (Biplove Choudhary) (UNDP Asia Pacific Regional Centreプログラム・スペシャリスト)、日下部京子 (AIT環境資源開発研究科ジェンダーと開発学専攻准教授)、セリム・ライハン (Selim raihan) (University of Dhaka准教授)

【担当】足立眞理子 (IGSセンター長)、申琪榮 (IGS准教授)、石川涼子 (IGSアソシエイトフェロー)、平野恵子 (IGSアカデミック・アシスタント)、吉原公美 (IGSアカデミック・アシスタント)。

②〈アジア工科大学院大学 (AIT) との連携事業〉

AITとの大学間学術交流協定に基づく、「ジェンダーと開発」領域における大学院生のための交換研修プログラム。

2月29日に特別公開ワークショップ「災害とジェンダー」を開催。AIT教員による事例報告として、フィリップ・ドニー (Philippe Doneys) (AIT環境資源開発研究科ジェンダーと

開発学専攻講師) が「災害時におけるメンタルヘルスとジェンダー」、日下部京子 (AIT環境資源開発研究科ジェンダーと開発学専攻准教授) が「ラオス山岳民族の移動となりわい：政策によって引き起こされた脆弱性のジェンダー分析」と題する報告を行った。学生パネルでは、高田千尋 (本学大学院博士前期課程) が「東日本大震災の被災地支援に見るCSR活動・企業による支援活動」、サムディ・タン (Samedy Thann) (AIT修士課程) と佐々木忍 (AIT博士課程) が「タイ大洪水とジェンダー」、スタンナード・ポリリー (Polly Stannard) (本学大学院博士前期課程) が「災害とセクシュアル・マイノリティ：東日本大震災以後の支援団体の対応に着目して——『ニーズ先行アプローチ』と『政策先行アプローチ』」と題し報告を行った。続いて八幡悦子 (みやぎジョネット) が「災害をのりこえて：女性支援の視点から」と題する特別講演を行い、池田恵子 (静岡大学教育学部教授、東日本大震災女性支援ネットワーク) がコメントを述べた。

なお、特別公開ワークショップに先立ち、外部より講師を招聘して以下の勉強会を実施した。

第1回 (1月10日) 鷹咲子 (参議院事務局企画調整室調査員・早稲田大学非常勤講師) 「3.11大震災後の子どもの状況：東京における母子避難者支援」、第2回 (1月23日) 池田恵子 (静岡大学教育学部教授) 「『災害とジェンダー』研究の成り立ちと展開」、第3回 (2月8日) 丹羽雅代 (女性の安全と健康のための支援教育センター運営委員) 「災害をジェンダー多様性の視点から考える」。

6. 教育・研修部門

①研究員

該当なし

②学部出講・大学院担当

〈人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー社会科学専攻〉

足立 眞理子

ジェンダー政治経済学 (前期)

ジェンダー政治経済学演習 (前期)

ジェンダー学際研究論文指導 (通年)

ジェンダー学際研究報告 基礎・発展 (通年)

館かおる

ジェンダー史論 (前期)

ジェンダー史論演習（後期） ジェンダー学際研究論文指導（通年）	柘植あづみ リベラルアーツ・ジェンダー9 生殖テクノロジーとジェンダー（後期）
申琪榮 比較政治論（前期） 比較政治論演習（後期） ジェンダー学際研究論文指導（通年）	高橋さきの リベラルアーツ・ジェンダー24 テクノロジーとジェンダー（前期）
<人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻> 足立 眞理子 開発経済学（前期） 開発経済学演習（後期）	7. 社会貢献 ジェンダー研究センター ・諸外国/国内の女性関係行政部門、民間団体（NGOの女性問題担当者等）、研究者等の視察受け入れ、日本の男女共同参画等の現状について解説など
館かおる ジェンダー関係論（前期） ジェンダー関係論演習（後期） 開発・ジェンダー論特論（前期 オムニバス） 国際社会ジェンダー論（前期集中、菅野琴・IGS客員研究員と共同） 国際社会ジェンダー論演習（後期 日下部京子・AIT准教授と共同）	足立眞理子 〈委員〉 ・日本フェミニスト経済学会代表 〈他大学出講〉 ・早稲田大学法学部非常勤講師「歴史・思想研究入門」「ジェンダー論I」（平成23年4月1日～平成24年3月31日） ・法政大学大学院経済学科非常勤講師（平成23年4月1日～平成24年3月31日） 〈講演など〉 ・北京大学大学院講義 〈その他〉 ・北京大学中外婦女研究中心との交流
申琪榮 フェミニズム理論の争点（前期） フェミニズム理論の争点・演習（前期） ジェンダー立法過程論（後期） ジェンダー基礎論（前期・オムニバス） 開発・ジェンダー論特論（前期・オムニバス） 国際社会ジェンダー論演習（後期 日下部京子・AIT准教授と共同）	館かおる 〈委員〉 ・日本学術会議連携会員 ・湯河原町男女共同参画懇話会会長 ・ジェンダー史学会常任理事 〈講演等〉 ・「青鞥」発刊100年のつどい実行委員会 講演「日本におけるシスターフッドの元始—『青鞥』—」（女性就業支援センター、2011年9月3日） ・ジェンダー史学会大会シンポジウム「『小経営体』のジェンダー分析—日本における歴史的展開とその方向性をめぐって」コーディネーター・司会（2011年2月10日） ・日本学術会議「史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会」報告「お茶の水女子大学ジェンダー研究センター呼称変更の歴史的含意」（2012年2月23日）
<学部> 足立 眞理子 グローバル化と経済（後期）	
館かおる 生活科学部 ジェンダー論（前期）	
申琪榮 生活科学部、グローバル文化学環 比較ジェンダー論（後期） リベラルアーツ・ジェンダー8 政治とジェンダー（後期）	

申琪榮

〈委員〉

・日本フェミニスト経済学会幹事

〈講演等〉

・ソウル大学外交学科Social Science Korea (2011年10月)

徐阿貴

〈講演等〉

・岩手県立盛岡第三高校プレ大学講座出前授業「メディアからジェンダーを考える」(2011年10月12日)

8. 文献・資料収集/情報提供/閲覧活動

1) 主要収集資料

湯浅年子博士の資料整理

【担当】 館かおる (IGS教授)、山崎美和恵 (埼玉大学名誉教授)、城石梨奈 (IGSアカデミック・アシスタント)。

2) 資料提供

■東京書籍 高等学校教科書『物理』へ、湯浅年子関係の資料提供

■日本学術協力財団『学術の動向』(2011年8月号)表紙に、湯浅年子関係の資料提供

■国立女性教育会館 平成23年度女性アーカイブセンター企画展示「科学と歩む～チャレンジした女性からチャレンジする女性たちへ～」へ、黒田チカ関係の資料提供

■国立科学博物館企画展「科学者展——ニッポンの近代科学の夜明け」解説パネルおよび小冊子へ、黒田チカ関係資料提供。

■日本化学会科学遺産委員会による企画展「2011年世界科学年」へ、保井コノ、黒田チカ、辻村みちよ、湯浅年子関係の資料提供

■東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 山本紗有里修士論文へ、保井コノ、黒田チカ、辻村みちよ関係の資料提供

■男女共同参画委員会主催シンポジウムでの講演「女性科学者群像」のために、保井コノ、黒田チカ、湯浅年子関係の資料提供

■国際シンポジウム「Women in Science and Education——女性研究者がリードする持続可能な社会」展示パネルに、保井コノ、黒田チカ、湯浅年子関係の資料提供

■論文 "Early women earth scientists in Japan" (国際地質

学史委員会*Proceedings of INHIGEO Symposium in Japan in 2011*掲載)に保井コノ関係の資料提供

■その他、ジェンダー研究センター刊行物等

3) リファレンスサービス資料及び情報の提供・閲覧・貸出・常設展示

■コピーサービス: 常時附属図書館情報サービス・情報システム係で担当

■ホームページ (和文・英文) の更新実施

■図書以外に関する情報提供

4) 図書・資料寄贈 (敬称略)

掲載は、和書: 寄贈者名『書名』(著者名)、洋書: 寄贈者名書名(イタリック)(著者名)の順とした。

<和書>

ジェンダー研究センター『全国高等女学校・実科高等女学校ニ關スル諸調査』(文部省普通學務局[編] 昭和5年度)、『全国高等女学校・実科高等女学校ニ關スル諸調査』(文部省普通學務局[編] 昭和6年度)、『全国高等女学校・実科高等女学校ニ關スル諸調査』(文部省普通學務局[編] 昭和7年度)、『全国私立中学校,高等女学校,実科高等女学校經費ニ關スル諸調査』(文部省普通學務局[編] 昭和4年4月20日現在)、『全国公立中学校高等女学校經費ニ關スル調査』(文部省普通學務局[編]昭和6年5月1日現在)、『全国公立中学校高等女学校實科高等女学校經費ニ關スル調査』(文部省普通學務局[編]昭和12年度)、『師範学校ニ關スル調査 昭和6年4月現在』、『創立五十年: 東京女子高等師範学校附属高等女学校』(東京女子高等師範学校附属高等女学校編)、『家族・仕事・家計に関する国際比較: 中国パネル調査』(COE間プロジェクト研究事業編 第2年度報告書)、『家族・仕事・家計に関する国際比較研究: 韓国パネル調査』(COE間プロジェクト研究事業編 第4年度報告書)、『家族・仕事・家計に関する国際比較: 中国パネル調査』(COE間プロジェクト研究事業編 第3年度報告書)、『ケース・ブック ジェンダーと開発: 若手研究者支援企画ケース・メソッド・セミナー「ジェンダーと開発」をケース・メソッドで学び、教える』(若手研究者支援企画ケース・メソッド・セミナー「ジェンダーと開発」をケース・メソッドで学び、教える『ケース・ブック-ジェンダーと開発』編集委員会編)、『香港における再生産労働の国際移転とジェンダー配置』(サブプロジェクトA2「アジアにおける国際移動とジェンダー配置」リプロダクティブ・ヘルス/ライツと女性に対する暴力の根絶』(F-GENS C-4班編集)、

『韓国におけるドメスティック・バイオレンス政策調査研究』報告書（『韓国におけるドメスティック・バイオレンス政策およびジェンダー政策調査研究』報告書・編集委員会編集）、『家族・仕事・家計に関する国際比較研究：韓国パネル調査』（COE間プロジェクト研究事業編 第5年度報告書）、『家族・仕事・家計に関する国際比較：中国パネル調査』（COE間プロジェクト研究事業編 第4年度報告書）、『ファン・ウソク事件と女性の資源化—韓国女性民友会をお招きして—：シンポジウム報告書：プロジェクトC3 ポストゲノム時代における生物医学とジェンダー』（COEプロジェクトC3研究事業編集）、『リプロダクティブ・ヘルス/ライツおよび女性への暴力に関する政策施行推進状況の調査：フィリピンにおけるトレーニングとそのマニュアルに注目して：活動報告書』（原ひろ子, 中山まき子, 渡辺美穂）、『「男性同性愛者」のセクシャリティから「男性」ジェンダーを見る：アジアにおけるHIV/AIDS問題の視点から：ワークショップ&国際シンポジウム：報告書』（F-GENS統括研究プロジェクト事業, 新ヶ江章友, 棚橋訓編集）、『公開研究会記録「セックスワーク論の再検討」日本における人身売買の被害に関する調査研究：報告書』（人身売買禁止ネットワーク（JNATIP）、お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」（F-GENS）著）、『「人身売買被害者支援の連携の構築-地域、国境を越えた支援に向けて」調査および活動報告書：トヨタ財団2005年度地域社会プログラム助成事業』（人身売買禁止ネットワーク（JNATIP）著）、『文化表象を読む：ジェンダー研究の現在』（プロジェクトD「日本文学領域」編集）、『女子高等専門学校入学試験要項綜覧表』（帝國學事部編 昭和13年度）、『農家農村生活便覧：よりよいくらしの原点を求めて』（農家農村生活問題研究会編）、『私たちの生活と文化：第13回全国婦人会議（1965年）』、『農山漁家生活改善のあゆみ：第20回農山漁家生活改善実績発表大会記念特集』、『女はこうして作られる：教科書の中の性差別』、『生活改善型・農家家計診断と長期生活設計のシステム』（宮崎礼子, 児島俊弘共編）、『図像のちからと言葉のちから：イギリス・ルネッサンスとアメリカ・ルネッサンス』（藤田實, 入子文子編）、『権力と身体』（服藤早苗, 三成美保編著）、『婦女文献：文献附刊』『廓清 = The Purity』、『NPOデータブック』（山内直人編）、『公共政策への招待』（進藤榮一編）、『公共政策のすすめ：現代的公共性とは何か』（宮本憲一著）、『遭遇解放：1890-1930年代的中国女性』（刘慧英編著）、『沈阳地图册』（辽宁北方经纬测绘技术有限公司编制）、『歴史的漫画』（本社編集部編）、『尘封的珍书异刊』（张伟

著）、『創刊號剪影』（谢其章著）、『星光魅影：上世纪前半叶电影明星自述』、『流光波影：1905-1966年电影海报集粹』（黄志伟編）、『电光幻影：上世纪前半叶电影故事存真』、『慰安妇研究』（苏智良著）、『日军性奴隶：中国“慰安妇”真相』（苏智良著）、『民国风情百美图』（丁棟绘）、『1934：沉寂之年』（李继锋主编）、『未能寄出的家信与照片：1948·长春』（张志強, 王放主编）、『1935：危机再现』（李继锋主编）、『新婦女論』（柯崙泰女子著；沈茲九, 羅瓊譯）、『百妓传奇』（吕昆, 李平, 致明编译）、『女の声：一九七五年の場合』（国際婦人年あいちの会「女を集めるグループ」編）、『婦女年鑑 第1回（上冊）』、『中國婦女運動』（劉王立明著）、『中国的婚姻与家庭』（邵伏先著）、『中国妇女读物书目选编：1980-2002』（中国出版工作者协会妇女读物研究会, 中华女子学院女性学研究与信息中心編）、『汜滨闲影』（罗苏文著）、『中国妇女受暴力侵犯研究：区域性研究报告』（孙晓梅編著）、『中国妇女学学科与课程建设的理论探讨』（孙晓梅編）、『玩在民国』（张庆军作）、『乐在民国』（戴雄作）、『東京薬學専門學校女子部概覽：文部大臣指定：昭和15年度』、『哈琼文的老宣传画』（哈琼文[画]）、『伪满皇宫博物院：珍藏纪念：[1]』、『伪满皇宫博物院：珍藏纪念：[2]』、『长春伪满建筑』、『长春伪满宫和「八大部」』、『神秘的旅顺口 = 神秘的な旅順口 = Mysterious Lushunkou』、『哈尔滨中央大街 = Harbin Central Street = Центральный проспект Г. Харбина』（冯羽著）、『中國婦女第一次全國代表大會』、『中華留學生教育小史：中華教育視察紀要』（松本龜次郎著）、『新生活論叢』（蔣中正[ほか]執筆；貝警華編）、『わたしは提言する女たちの教育改革』（女性による民間教育審議会著）、『人の移動と文化の交差』（粟屋利江, 松本悠子編著）、『家族・仕事・家計に関する国際比較：中国パネル調査』（COE間プロジェクト研究事業編 予備調査報告書）、『家族・仕事・家計に関する国際比較研究：韓国パネル調査』（COE間プロジェクト研究事業編 第1年度報告書）、『日本・韓国・タイにおける学校性教育の調査及び文献研究の予備的調査報告』（「日本・韓国・タイにおける学校性教育の調査及び文献研究の予備的調査報告」報告書編集委員会編）、『労働組合に見るジェンダー平等：「労働組合とジェンダー」調査報告書』（F-GENSプロジェクトB研究事業, 篠塚英子編集）、『台湾におけるドメスティック・バイオレンス政策調査研究』報告書（『台湾におけるドメスティック・バイオレンス政策調査研究』報告書・編集委員会編集）、『性と生殖・国家の政策』（波平恵美子編集）、『アジアにおけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツおよび女性への暴力に関する政策形成・推進過程調査から：活

動報告』(原ひろ子, 中山まき子, 渡辺美穂)、『家族・仕事・家計に関する国際比較研究: 韓国パネル調査』(COE間プロジェクト研究事業編 第2年度報告書)、『連携研究「アジア認識とジェンダー」シンポジウム: 東アジアの『戦後』60年: 軍事化とセクシュアリティ, 2006年1月7日』(「連携研究『アジア認識とジェンダー』シンポジウム: 東アジアの『戦後』60年: 軍事化とセクシュアリティ」報告書編集委員会編集)、家族・仕事・家計に関する国際比較研究: 韓国パネル調査』(COE間プロジェクト研究事業編 第3年度報告書)、『新生活的金钥匙: 新婚内参夫妻宝典』(阐明編著)、『中外妇女研究透视』(孙晓梅著)、『老影星: 1905-1949 = Old movie stars』(郭华著)、『柔肠寸断愁千缕: 中国古代妇女的贞节观』(石云, 章义和著)、『时髦外婆: 追寻老上海的时尚生活』(蒋为民主编)、『アジアにおけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツの政策形成過程調査から: 活動報告』(原ひろ子, 中山まき子, 渡辺美穂)、『東アジアパネル調査に関する国際会議報告書』(COEプロジェクト研究事業編)、『ジェンダーの視点から開発の「場所」を考える: 開発実践者・研究者のコラボレーションをめざして: 若手支援のためのワークショップ報告書』(ワークショップ報告書『ジェンダーの視点から開発の「場所」を考える-開発実践者・研究者のコラボレーションをめざして』編集委員会編)、『家族・仕事・家計に関する国際比較: 中国パネル調査』(COE間プロジェクト研究事業編 第1年度報告書)、『国家/ファミリーの再構築: 人権・私的領域・政策』(戒能民江編著)、『国際移動と「連鎖するジェンダー」: 再生産領域のグローバル化』(伊藤るり, 足立眞理子編著)、『少子化とエコノミー: パネル調査で描く東アジア』(篠塚英子, 永瀬伸子編著)、『テクノ/バイオ・ポリティクス: 科学・医療・技術のいま』(館かおる編著)、『欲望・暴力のレジーム: 揺らぐ表象/格闘する理論』(竹村和子編著)、『国際フェミニズムと中国』(タニ・E・バーロウ著; 伊藤るり, 小林英里訳)、『婦人文芸』、『文学散歩』、『本郷』、『国・自治体のジェンダー政策: 若手研究者・NGO中心型ワークショップ報告書』(ワークショップ「国・自治体のジェンダー政策」報告書・編集委員会編)、『アメリカの婦人』、『「育児」を契機とするクロスオーバー』(JSGS-Net若手研究者と育児ワーキンググループ編集)、『文化表象の政治学: 日韓女性史の再解釈』(天野知香, 李南錦, 松尾江津子編集)、『さきくさ : 22号』、『十文字高等女学校新築落成記念帖』、『长春伪满遗址大观』(沈燕著)、お茶の水女子大学附属図書館『なよ竹』、長野ひろ子/姫岡とし子『歴史教育とジェンダー: 教科書からサブカルチャーまで』(長野ひろ子,

姫岡とし子編著)、足立眞理子『政治経済学の政治哲学的復権: 理論の理論的「臨界 -- 外部」にむけて』(長原豊編)、館かおる『女性とたばこの文化誌: ジェンダー規範と表象』(館かおる編)、小野寺百合子『児童の世紀』(エレン・ケイ著; 原田實訳)、『児童の世紀』(エレン・ケイ [著]、小野寺信, 小野寺百合子訳)、『恋愛と結婚』(エレン・ケイ著; 原田實訳 上)、『恋愛と結婚』(エレン・ケイ著; 原田實訳 下)、『恋愛と結婚』(エレン・ケイ著; 小野寺信, 小野寺百合子訳 上)、『恋愛と結婚』(エレン・ケイ著; 小野寺信, 小野寺百合子訳 下)、『元始、女性は太陽であった: 平塚らいてう自伝』(平塚雷鳥著 下)、『エレン・ケイ』(ニストレムハミルトン著; 原田実訳)、『生命の使徒=エレン・ケイ』(ニストレムハミルトン著; 原田実訳)、『エレン・ケイ教育学の研究: 「児童の世紀」を出発点として』(トールビョルン・レングボロン著; 小野寺信, 小野寺百合子訳)、

〈洋書〉

ジェンダー研究センター *Beyond the difference : repositioning gender and development in Asian and the pacific context : proceedings International Workshop for Junior Scholars, January 12-14, 2007, A College in dispersion : women of Bryn Mawr, 1896-1975* (editor Ann Miller ; preface, David Riesman ; foreword Katharine E. McBride)、*The reader* (by K.K. Sklar)、*Kvinnovetenskapens vadan och varthän : rapport från en konferens* (red. Eva Borgström & Anna Nordenstam)、*Nordic co-operation in women's studies and gender research = Coopération Nordique pour les études sur la condition féminine et la recherche sur l'égalité des sexes Noli me tangere* (by Jose Rizal ; translated by Leon Ma. Guerrero : Newsprint ed)、*Survey on the representation of women in higher education, research, educational planning, administration and management, Population, resources, environment and development databank (PRED Bank, version 3.0)* (United version prepared by the Population Division of the Department of Economic and Social Affairs of the United Nations Secretariat)、*Women and public life in early Meiji Japan : the development of the feminist movement* (Mara Patessio : pbk)、*Migrant domestic/care workers and the reconfiguration of gender in Asia : proceedings International Workshop for Junior Scholars, January 24-25, 2004* (Kyoko Shinozaki, Ruri Ito, Angelina Chin editors)、*Policies for the elimination of violence*

against women and their children in the Republic of the Philippines : case studies in Metro Manila and Davao City, Rethinking science and medicine from the perspective of gender in the post-human genome project era : proceeding of workshop for junior scholars, The female as subject : reading and writing in early modern Japan (edited by P.F. Kornicki, Mara Patessio, and G.G. Rowley : pbk)、*Gender equality in Asia : policies and political participation* (edited by Miyoko Tsujimura & Jackie F.Steele)、*F-GENS final report, Australian feminist studies, Reproductive health/ rights in Asia within the process of policy making for the elimination of violence : a case study in the Philippines, The making of a feminist : early journals and letters of M. Carey Thomas* (edited by Marjorie Housepian Dobkin ; with a foreword by Millicent Carey McIntosh)、*Malaysian women today* (Shyamala Nagaraj)、*NORA : Nordic journal of women's studies, Rethinking science and medicine from the perspective of gender in the post-human genome project era : proceeding of workshop for junior scholars [I]*, 『번민하늘이 웃과함께 = Together with my suffering neighbor』 (고정희 책임 편집 ; 이 선희 번역)、国際日本文化研究センター *Governance and policing of colonial Korea : 1904-1919* (Matsuda Toshihiko)、加藤シヅエ *Love and marriage*, Ellen Key ; translated from the Swedish by Arthur G. Chater ; with a critical and biographical introduction by Havelock Ellis、菅野琴 *Gender responsive budgeting in education [Reina Ichii]*, *Promoting gender equality in education : Gender in education network in Asia-Pacific (GENIA) Toolkit : print ver.*, マーラ・パテッシオ *Women and public life in early Meiji Japan : the development of the feminist movement* (Mara Patessio)、小野寺百合子 *Barnets århundrade* (Ellen Key)、*Love and marriage* (Ellen Key ; with a critical and biographical introduction by Havelock Ellis)、*Barnets århundrade* (Ellen Key)、*En studie i Ellen Keys pedagogiska tänkande främst med utgångspunkt från "Barnets århundrade" = eine studie zu Ellen Keys pädagogischem Denken mit Ausgangspunkt vom "Jahrhundert des Kindes"* (Thorbjörn Lengborn)、*Kamp för ett nytt kvinnoliv : Ellen Keys idéer och deras betydelse för sekelskiftets unga kvinnor* (Beata Losman)、*Missbrukad kvinnokraft ; Kvinnopsykologi* (Ellen Key ; med förord, kronologisk översikt och inledning om Ellen Key i

kulturrevolutionen av Björn Sjövall)、*Kärleken och äktenskapet : livslinjer I* (Ellen Key 1-2)、*Lyckan och skönheten : livslinjer III* (Ellen Key 1)、*Lyckan och skönheten : livslinjer III* (Ellen Key 2)、*En djupare syn på kriget* (Ellen Key)、*Människan och Gud : livslinjer II* (Ellen Key 1)、*Människan och Gud : livslinjer II* (Ellen Key 2)、*Hemmets århundrade* (Ellen Key ; urval och inledning av Ronny Ambjörnsson)、*Ellen Keys väg från kristendom till livstro* (Ulf Wittrock)

5) 来館・閲覧者

学生・研究生・大学院生 3名
大学院以上の研究者 4名
その他 2名